歴史

千僧供町の「歴史」を感じる。

何気なく見過ごしてしまいそうな森や建物にも、実は興味深い歴史が隠されています。いにしえの息づかいを感じてみませんか?

千僧供古墳群 Senzoku Kofun-gun

千僧供古墳群は、近江八幡市の南東部の平地にある古墳群で、現在、供養塚(くようづか)古墳、住蓮坊(じゅうれんぼう)古墳、岩塚古墳、トギス塚古墳の4基の古墳が残されています。この地域における5世紀中頃から7世紀にかけての在地首長の系譜をたどることのできる古墳群として重要です。

住蓮坊古墳
(左)現在 (上)発掘当時

千僧供古墳群はもとは、10基以上の古墳からなる古墳群でしたが、現在残されている主なものは以下の4基だけとなっています。古いものからその概要を紹介します。

住蓮坊古墳は、墳丘径が約53m、堀を含めるとその径が約93mにも及ぶ県下でも屈指の大形円墳です。葺石、埴輪は確認されていません。堀から出土した遺物から、5世紀中頃の築造と考えられます。**供養塚古墳**は、もとは円墳と考えられていましたが、昭和57年度に実施した発掘調査の結果、後円部径約37m、前方部幅約22m、堀を含めると全長が約70mの帆立貝式の古墳であることがわかりました。葺石があり、多くの形象埴輪が出土しており、この年代から5世紀の終わり頃に築造されたと考えられます。また、江戸時代と昭和9年に鏡や武器武具類が出土したことが知られています。**岩塚古墳**は、径が27.5mの円墳で、幅2m、長さ11mの横穴式石室が露出しています。6世紀末頃の築造と考えられます。**トギス塚古墳**は、主体部のほとんどが消失していますが、直径が14m程度の円墳で、幅1.5m、長さ5mの横穴式石室を主体部とします。出土した土器から7世紀初頭の築造と考えられます。

(滋賀県文化財学習シート“史跡名勝天然記念物編”合本 より)

岩塚古墳 発掘当時

供養塚古墳
(左)発掘当時 (右)現在

冷泉寺 Reisenji

淳和天皇(在位823～33)の時代に開基と伝えられ、初め曼陀羅院と称し、天台宗に属したといわれます。元亀2年(1571)の兵乱で焼けましたが、天正15年(1587)、可山道印が焼け残った諸仏を安置しました。寛文10年(1670)、禅僧満庵が来由して曹洞禅刹として再興し、寺名を冷泉寺と改めました。本堂に安置する千手観音・薬師如来・地蔵菩薩などの古仏像は国の重要文化財に指定されています。

馬見岡神社 Umamioka Jinjya

馬淵郷を構成する岩倉、千僧供、馬淵の3集落は、それぞれに氏神を祀っています。そして、3集落の総鎮守として馬見岡神社が存在します。瓶割山の山麓に南を向いて祀られている馬見岡神社は、式内馬見岡神社に比定される論社で、近世馬気大明神の名で呼ばれていました。この社の1年神主(社守という)は千僧供の中の神宮村が担当します。

椿神社 Tsubaki Jinjya

神門(滋賀県指定文化財)

明治以前は十禅師権現と称し、日吉山王の上7社のひとつ樹下神社を勧請した社です。千僧供の地名が示す通り延暦寺の荘園であった時代があり、『源平盛衰記』にある延暦寺に寄進された千僧供養地のひとつと考えられています。

【春の大祭】

- ●5月1･2日 馬見岡神社
- ●5月3･4日 椿神社

千僧供町まちづくり委員会　2024年2月_1,000部発行

千僧供町

語り継ぐ歴史と 発展のまち

■千僧供町マーク

千僧供 村のほぼ中央を中山道が通る。東端の六枚橋で鮎河道が分岐し蒲生野に至る。西から南にかけては馬淵村。古代条里の遺称とされる三ノ坪の小字が残る。なお、当地にある弥生～鎌倉時代の複合遺跡堀ノ内遺跡、古墳時代中期～後期の千僧供古墳群、蒲生郡衙に比定される遺構を含む御館前遺跡や現馬淵町域の観音堂遺跡、同じく馬淵町の弥生～鎌倉時代の勧学院遺跡などを含め一帯の遺跡は千僧供遺跡群としてとらえられ、これらの遺跡を形成した各共同体の複合体が、当地一帯を拠点として一大勢力を誇ったと考えることもできよう。中世には佐々木庄の庄域に含まれたと考えられる。同庄は「玉葉」に「佐々木庄者、延暦寺千僧供庄也」とあって(建久二年四月二日条)、延暦寺の千僧供養料地となっていた。地名はこのことに由来するという。

(日本歴史地名大系第二五巻「滋賀県の地名」より)